

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 )

事業所番号	0670400340		
法人名	米沢弘和会		
事業所名	サンプラザ米沢グループホームさんさん		
所在地	米沢市大字築沢3470		
自己評価作成日	平成 21 年 8 月 6 日	開設年月日	平成 9年 7 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気な中で、個々の状態に合わせた支援のもと、できるかぎり現状維持ができ、安心して楽しく充実した生活を送れるよう支援をしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 21年 8月 26日	評価結果決定日	平成21年 9月 18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれた緑豊かな地域に位置し、近所の小学校の児童が遊びに来たり、散歩や外出時に近所の方から気軽に声を掛けてもらう地域に根ざした事業所である。また、敷地内には、同法人が運営する老人保健施設その他介護事業所があり、様々な点での連携が図られ安心して暮らせる事業所である。職員は、利用者一人ひとりのペースに合わせ自己決定を尊重し、利用者本位の支援に努めている。そこには、利用者の自然な笑顔があり、明るく家庭的な雰囲気の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念「一人ひとりの命を尊重し安らぎのある人生が送れるよう支えあう」をもとに事業所内で行動目標を作り実践につなげている。	法人の基本理念を受け、事業所独自の運営方針と行動目標を職員全員で検討し作成している。それらは常に立ち戻る原点として事業所内に掲示し、家庭的な環境のもと、利用者の意思を尊重し、地域との交流を大切に支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区行事(運動会、文化祭等)に参加して交流を図っている。又築沢地区の施設のお祭りに地区の幼稚園が共催し一緒に楽しんでいる。	町内会に加入するとともに、運動会や文化祭、夏祭り等に参加している。また、近所の人との茶飲み話をする場面や、子ども達が遊びにくる等、普段の暮らしの中で、双方向的な交流が図られている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内サービス企画室で開催している介護予防教室に参加をしアピールしている。	/	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にさんさん便りを発行したり、写真を掲示し活動等報告している。家族からの意見等は会議を行い検討し向上に努めている。	利用者代表、家族、地域住民代表、市職員、知見者及び職員で構成され、生活状況等を報告すると共に情報交換の場として活用している。様々な視点で率直な意見交換がなされ、その後、職員会議で検討しサービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加はもちろんのこと、市からの派遣職人2名が毎月訪問され交流を図っている。市へも出向いていくよう心掛けている。	市の担当職員には、運営推進会議に参加してもらい、市の介護相談員とは、現場での実践的な意見交換を行っている。様々な相談や気づきを通し情報共有を図ると共に、協働体制を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人全体の教育、事業所の行動目標にもかかげ拘束のない生活が出来るよう支援している。	事業所の行動目標に掲げ、勉強会等を通し重点的に取り組んでいる。また、一人ひとりの意向を汲み取ることを心掛け、見守り寄り添いながら不安や混乱の要因を取り除き、身体拘束のない支援に取り組むと共に、鍵を掛けない抑圧感の無い暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の教育もあり虐待防止について各職員理解し努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料等で勉強は行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時、契約時に文章、口頭で説明を行い不安に思うこと心配等を気軽に話しが出来るよう心掛け、理解納得してもらえる様努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望の記入用紙を設置している。また、市からの派遣職人の訪問もあり表せる機会を設けている。意見等あれば職員全体で検討し反映している。	玄関に意見箱を設置すると共に、面会時には、率直な意見がもらえるよう信頼関係を築くことに注力している。また、市の介護相談員へも意見を伝えられるようになっており、出された意見等については、職員会議や法人の苦情委員会等で解決に向け取り組んでいる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開き聞く機会を設けている。その意見を管理職会議に持っていき反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間も恵まれ、働きやすい環境にある。また、給与の大幅な見直しがおこなわれている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の面接を行い各職員と向き合っている。職員の状態に応じ研修会にも参加している。また、資格取得に向け勉強会も開催している。	各職員の経験や習熟度を、事業所独自の確認シートを用いて把握し、それに基づく年2回の面接を行い、段階に応じた様々な研修の機会を設けている。また、資格取得に向けた勉強会は、計画的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会の会員になり研修会の参加を図っている。また、職員交換研修会等に参加し交流を図り向上に努めている。	山形県グループホーム連絡協議会の交換研修等に派遣しているものの、それ以外、同業者との交流の機会は、今のところ不足している。	検討中ではあるが、同業種間でのネットワークづくりを通じて、情報交換、同業種ならではの悩み解決の場として、実践的な交流を期待したい。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に十分本人から話を聞き現状までの生活状況を把握出来るよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時に十分家族から話を聞き現状までの生活状況を把握出来るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	近隣施設との連携を図り最良の支援が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔のことや料理、裁縫のときなどその方の得意なものを引き出し、職員も教えてもらいながら共に過ごせる環境作りを行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡を密にして、協力してもらえることは出来るだけお願いしている。また面会時現状を報告し情報の共有を心掛けている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所にドライブに出掛けたり、面会時一諸に写真を撮ったりしてそれを元にコミュニケーションを図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時の状況を観察し、その時その場に応じた仲間作りを支援し馴染みの関係につなげている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人全体の取組みにより退居後も行事をお知らせする等行なっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で思いや希望を聞き申し送ることで職員全体が把握出来るよう努め検討を行なっている。	日常的な会話や関わりを大切にしながら、気づいたこと等の意見を、職員全員で出し合い、意向に沿った支援に努めている。また、困難な場合は、家族等から情報を得ようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴など聞き取りを行なっている。各職員は、休憩時間や夜勤時間を利用し把握出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや日々の生活の関わり、毎日の記録申し送り、ケアプランを通して現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント作成時、家族の協力を得一諸に課題を明らかにすると共に希望を取り入れ会議開き介護計画を作成している。	介護計画は定期的に評価し、現状に即した計画を作成している。担当者会議等を開催し、必要な関係者との話し合いが行われている。職員のアイデアを生かした計画には至っていない。	介護計画は職員によるモニタリングや普段の利用者との接する中でのさまざまな情報を生かし、アイデアを取り入れる仕組みの検討を期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人毎にファイルし具体的に記録し日々の申し送りを蜜に行い都度話し合い情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係施設に訪問したり、行事に参加してもらっている。安全、安心して暮らせるよう駐在所、消防署との連携も行なっている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人、家族と話し合い受診する医療機関を決めている。個人のかかりつけ医にいつでも相談できる体制を作っており24h対応可能な状態になっている。また法人の老健の医師とも連携を取っている。	利用者、家族の希望を優先し、受診できるよう支援すると共に、受診結果等についても情報共有が図られている。また、地域の病院との24時間対応可能な協力関係と、隣接する老人保健施設の医師との連携も取れている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師にいつでも相談できる体制を作っている。また近隣施設の看護師にも相談できる体制も出来ている。何かあればすぐ対応可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中見舞いをおね、病院の相談員と相談し、家族の希望を聞きながら病院との連携を図り早期の退院に向けた働きかけ行なっている。また協力医療機関との連携もとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に将来についての相談を行なっている。その都度かかりつけ医にも相談し家族とも話し合いを重ねながら対応している。また近隣施設との連携をとれる体制をとっている。	利用開始時に、意向を確認し具体的支援内容や対応方針を、家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、方針を統一している。また、状態変化時においても、段階的に検討している。尚、医療機関や法人内の近隣施設との連携体制も構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人マニュアルに沿って実施している。近隣施設の協力も得られる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練は、年2回実施している。近隣施設と合同でおこない連携がとれるにしている。	地域の消防団との協力体制のもと、年2回の訓練を実施している。また、同法人の運営する隣接施設との連携も取れており、現在は、他県での水害事例を検討し防災体制の強化に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという意識し日常かかわりをもっている。また利用者に合わせてコミュニケーション・雰囲気を作り、傾聴し、理解できる言葉で会話するよう心掛けている。	利用者一人ひとりのペースに合わせ、自己決定を尊重するよう行動目標に掲げ、常日頃から、利用者は人生の先輩であるという意識を徹底している。特に、声掛けには注意を払い、人権とプライバシーに配慮した支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての物事を利用者自身が自己決定出来るように言葉がけを行い自立心を引き出している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての物事を利用者自身が自己決定出来るように言葉がけを行い希望に沿って過ごせる様に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら個人の個性を尊重した身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や畑から一諸に収穫した野菜を取り入れコミュニケーションを図りながら調理、盛り付け、片付けに参加してもらっている。また食事を一緒に取ることで、利用者に合わせて配慮を行なっている。	自家菜園で収穫した野菜や、利用者の好みを取り入れた食事は、会話を楽しみながら、一連の作業を一緒に行うことで、家庭的で楽しむことのできるよう支援している。また、献立を隣接施設の管理栄養士に確認してもらい、栄養バランスにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談しながら献立を作成している。また利用者の状態に合わせて柔らかめにしたり刻んだり工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に心掛けている。義歯はポリデント消毒をおこなっている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握出来るようにチェック表を活用し、随時のトイレの声がけ・誘導を行っている。使用物品の検討も検討している。	排泄チェック表を用い、排泄パターン等を把握し、適時の声掛けやさり気ない誘導により、自立に向けた支援を行っている。また、羞恥心へ配慮した対応を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、繊維質の多い副食、多めの水分補給を促している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	日々の希望に合わせた入浴を行なっている。拒否時は時間をずらしたりし、臨機応変な対応を心掛けている。	日中、入浴可能な時間帯に、利用者の意向に合わせた入浴を行っており、利用者の希望により朝湯に対応した例もある。また、入浴を拒む利用者に対しては、時間帯を変えて声掛けする等臨機応変に対応し、楽しんで入浴できる支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や日光浴等を行い生活のリズムを整えている。また披露の程度を観察し状態に応じた支援を行っている。眠剤を服用せず入眠されている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師からの説明・指示を実行し理解されている。変化があれば随時医師への報告をおこなっている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報収集を行い、生活歴を生かしその人に合った役割、作業、活動を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に行き、グランドで遊んでいる子供達や近所の方と接している。また買い物やドライブ、近隣施設との交流を行なっている。また行事等で少し遠出のドライブを企画している。家族と相談しながら対応している。	周囲を散歩しながら近所の人々とふれあったり、近くの足湯や食事の買い物に行く等、日常的に戸外へ出る機会を作っている。また、季節に応じた名所へのドライブや、回転寿司に行く等気分転換を図るよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の希望で小額の金銭を持っている。また個々に応じて事務所で管理している。必要物品や好みのものを買に出かける機会を作っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改築している。居間・食堂には茶箆筥、座卓、テーブル・季節の花を飾ったり、料理の際の匂い等家庭的な雰囲気でも過ごせるような環境づくりを行なっている。	日本建築の民家を改装した居間や食堂は住み慣れた家庭的な雰囲気である。また、季節感を取り入れた飾り付けや、日よけの朝顔など居心地をよくするための工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファを置きくつろげる空間を作っている。テーブルの配置を定期的に変えたりして、良い関係が保てるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と話し合い、馴染みのもの、好みのものを持ち込めるよう利用者の現状に合わせた対応を行なっている。	利用者や家族の希望に沿い、馴染みのものを持ち込み環境の変化が少なくなるよう配慮している。また、プライバシーを大切にしながら、安心して過ごせる環境作りに配慮した支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に合わせた対応を行い現状を維持できるように支援を行っている。		